



6月1日(水)

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



走り続けるWOTA 挑戦し続ける企業

現在、世界には、安心・安全な水が使えない人たちが約6億6300万人も存在している。つまり、水不足に陥っているのだ。それを解決するために、WOTA株式会社が設立された。私たちは、2022年6月1日、「#地球塾2050」でWOTAの前田社長のお話を伺った。前田社長は現代の水問題の解決に取り組む第一人者だ。

世界の水問題解決へ

「水球」と呼ばれている地球。しかし今、水資源を巡って危うい状況になっている。人口増加や気候変動などで深刻化した水不足は、2030年には約39億人の人たちが悩まされるという予測もある。「水が豊かな国」と称されている日本では、大量の降水を保水するという人間の創意工夫で保たれている。世界の水不足やその他の水問題も解決することができるかもしれない。そこで前田社長らで作ったのがWOTAである。(平賀咲希)

「水のオフグリッド」

WOTAでは水の98%リサイクルを実現したり、



回答は次のようだった。「確かにそういった考え方もできたが、明らかに『作り出す』方がコストは高く、効率もあまりよいとは言えない。そこでWOTAの技術をつかえばその短所をすべて解決できる」。今後も前田社長率いるWOTAを応援し、協力していきたい。私はWOTAのビジネスを電気に応用するとうなるのだろうかと考えた。その一つの例が核融合炉の運用だ。(照井琉生)

地球に太陽を創る

核融合炉の原理は太陽が光り輝く原理と全く同じ

私たちが考えたこと

前田社長は中学生の頃から全人類共通の水問題に目をつけ、調べ始めた。また、「困っている人のために何かできることはないか」という考えのもと、高校生でホームページ作りなどという活動を行った。私はこのようなお話を伺って、身近なものに興味、疑問をもち、自らアクションを起こしていくことが大切だと感じた。多くの人がそのアクションを積み重ねていくことで近年、注目されているSDGsにも貢献でき、更には世界規模の様々

だ。太陽は水素やヘリウム等のガスでできているという話を聞いたことがあるという人も多いだろう。そのガスを1億2000万度まで上げると原子内部で核反応が起こり、膨大なエネルギーが得られるのだ。前田社長は核融合に対して「アインシュタインの『E=mc²』の法則では質量に対して大きなエネルギーが得られるはずなのにそれができない。けれども核融合炉はこれまでの方法と比べもつと大きなエネルギーが得られる」と話していた。水だけでなく電気もよりエコノミーになると良いなと考えた。(小林祐基)

な問題も解決できるのではないだろうか。

(山本未侑)

まとめ

SDGsの六つ目の目標「安全な水とトイレを世界中に」でもあるように、世界では安全な水が不足している。一人でも多くの人が安全で安心な水が使えるようになってほしい。そんな思いからWOTAは生まれた。独自で生み出した技術を使って開発を進め、世界中の水不足のために、日々奮闘している。私達も、世界中の水不足について改めて考える良い機会になったと思う。(乾晴芳)

世界的な水資源問題の対策として開発されたのが水を98%リサイクルするWOTAの技術だ。ただ、水「作る」という考え方もできたはずだ。それについて前田社長に質問してみた。

未来・予想

(夏目凜子)